

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4372400947 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 天恵会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ありあけの丘 | | |
| 所在地 | 熊本県玉名市天水町部田見 448番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年7月24日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年10月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1 |
| 訪問調査日 | 令和3年9月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人一人の特技を活かせるように、家事活動や趣味活動は勧めています。 ・入居者の状態を把握し、日頃の生活の中で出来ることを支援し「見守りながら待つ」ことを職員が周知しています。 ・楽しく生活して頂けるよう入居者と共用型認知症対応型通所介護との顔なじみの関係が出来ている。 ・グループホームで季節に応じた野菜作りを行っている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>入居者一人ひとりの今できていることが、出来るだけ長く続けられ、その人らしく過ごせるように、見守りと待ちのケアを大切にしている。食事も排泄も、職員の見守りとさりげない支援を受け、入居者はそれぞれのペースで自立している。リビングを共有している通所利用者とも馴染みの関係が出来ており、昼食後は、昼寝をしたり、おしゃべりをしたり、ゆったりと過ごしている入居者の様子から安心して暮らせる環境が整っていることが伺えた。ホームは、母体の特別養護老人ホーム等、関連事業所と隣接して位置しており、ホームの課題等は、経営会議・事業運営推進会議等へ報告され、適切な支援が受けられる体制が出来ている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の朝礼時に職員全員で読み上げるよう事業所の理念は見やすい場所に掲げている。認知症になっても生活の意欲を高めるようにその人らしく生活できるよう尊厳を保つことに努めている。 | 法人の理念を基に、ホームの開設時にホーム独自の理念を作成し、日々朝礼で唱和しながら職員への浸透を図り、ケアの拠り所としている。 | 唱和することに加え、理念に込められた思いや言葉の解釈等についても話し合う機会があれば、職員の理解はより深まると思われる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍になる以前は、地域の行事に参加し地域の人と交流が持て、本体である交流会や春祭り、ボランティアの集いなどを行っていたが、現在は出来ていない。 | コロナ禍以前は、法人主催の春祭り、幼稚園や保育園の子どもたちの来訪、ボランティアの集い等、楽しく接する機会も多くあった。今後、コロナが収束した際には、近隣の子どもたちにも声掛けし、以前のように交流の機会を増やしたいとしている。法人は、街中の人々が訪れやすい場所に、利用者・子どもたち・地域の人々が集える場所づくりを検討しており、地域への更なる貢献を目指している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症サポーター養成講座の開催、玉名市キャラバンメイトの活動参加はコロナ感染症により出来ていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の運営推進会議は隣接されているユニット陽だまりと合同で開催していた。現在も、コロナ禍の為書面審議としている。資料は、出席される委員の方々に意見を直接聞けるよう職員が持参している。部門会議では、入居者の変化等について話し合っている。 | コロナ禍のため対面会議は控え、委員各位には資料を持参して情報提供を行っている。 | 対面で運営推進会議が開催出来るようになった際には、災害時の避難支援体制づくり等ホームの課題を相談し、具体的な協力を依頼することも良いと思われる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に玉名市の担当者、地域包括支援センターの職員にも本来ならば参加して頂き、情報やサービスの取り組みを伝えていた。現在、コロナ禍で参加して頂くことができない状況で、チラシやホームページ、電話連絡で必要な時には、後見人などにも協力を仰いでいる。 | 行政からの通知等の情報は、隣接する母体法人を通して伝えられている。市や包括支援センターとは必要時に電話で情報交換を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 入居者一人一人の動き出しやペースに合わせ状況を観察し、思いを大切にしている。また、玄関や出入りが出来る場所にセンサーやブザーを使用せず見守りを中心に対応している。ベッドの4点柵は使用していない。 | 理念の中の「職員の心得」に、「やさしい言葉かけ」と明示し、職員への浸透を図って拘束のないケアの実践に励んでいる。入居者の動作・仕草を見て声をかけるときは、常に自分が言われる立場となって考え、スピーチロックにつながらないように、適切な声掛けを心掛けるよう指導している。外に出かける素振りが見られたときは、職員もさりげなく同行し、いつもの散歩コースを歩き、気持ちがリセットされたところでホームに帰るなど工夫している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 今年も昨年と同様、各事業所内で高齢者虐待について研修映像で知識を深めた。常日頃、入居者を意識して行動するように、職員間でも業務内で不適切な言動は注意し合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 映像での施設研修に参加し、職員全員に学んでいただいている。ご家族や外部の相談にも担当課へ繋げられるよう対応している。成年後見制度を利用されている場合は、担当の方と情報交換など連携体制をとり支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には契約書と重要事項説明書の内容をしっかりと説明し、承諾を得たうえで契約を頂いている。制度改正に伴う加算関係や料金の変更時はその都度家族に説明を行い同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関にご意見箱を設置し、意見や要望を書いて頂くようにしている。今年度もコロナ禍で面会が難しく、日用品を持参された際に個別に意見を伺っている。また、家族より連絡があった場合にも意見を伺っている。 | 緊急事態宣言下やまん延防止期間は、家族の面会は極力控えていただき、まん延防止が解けた時のみ、玄関先でガラス越しの面会を行い、希望者にはリモート面会も実施している。職員は家族に毎月電話し入居者の状況を報告している。家族からの意見等は少ないように見受けられた。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業所間の情報は、その都度管理者から職員へ伝えている。また、部門会議で経営会議、事業運営推進会議の内容を伝え、運営の方針などを周知している。 | 職員の意見は、部門会議で検討され、提案等は必要に応じて事業運営推進会議・経営会議等へ提出される仕組みがある。また、経営者・法人からの情報も適切に伝えられる仕組みができています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 常に職員とのコミュニケーションを図り、勤務希望を聞き、なるべくお互い様の気持ちで譲り合い調整を行い、働きやすい職場づくりに努めている。職員の得意分野を担当してもらいやりがいを引き出している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人の施設内研修及び、個々に応じた研修会にはリモートで参加をしている。業務や個別のケアが出来ていない場合にはその都度指導している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍で、施設外の職員との交流機会が少なくなっている。オンラインでの施設外の研修に参加している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居される前には、本人様の情報収集を行い、本人様の在宅での生活や習慣を継続出来るように、思いに沿った支援を行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 来居時には気軽に話の出来る雰囲気づくりに配慮し、入居時、入居後もしっかりと家族の意見を傾聴し、日々信頼関係が築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受けた際には、当事業所でのサービスを希望されたのかをお聞きし、現状把握し、様々な支援を紹介し選択出来ることをお伝えしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活の主体はご本人であり、職員はともに暮らす意識を持ち、その人らしい生活を支援している。家事活動を中心にご本人の出来る部分に目を向け支援を行っている。できない部分のサポートをするように心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の気持ちに寄り添い、ご本人の思いを理解して頂きながら、家族を思う気持ちがご本人から聞かれたときにはリモート面会をお願いし、協力を頂いている。ご本人を支えるうえで必要なことは協力して頂いている。ご家族へは、2カ月に1回写真を同封し、郵送している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 現在、コロナ禍で外出や外泊が出来ない為、ご家族とのゆっくりとした時間が築けるようにリモート面会を活用している。また、お手紙と写真を送付し、日々の様子をお伝えしている。7月に1回面会制限が解除できた時に1家族面会された。 | 現在は、家族や知人との面会や外出はできない状況であり、入居者同士や、職員、デイサービス利用者等が馴染みの顔ぶれとなっている。コロナが収束したら、「ふるさとめぐり」として自宅やその周辺などを訪問し、馴染みの人や場との関係継続支援も行いたいとしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日中はテーブルを皆で囲み、お話やレクリエーションを楽しみ、利用者同士が関わりやすい環境や空間づくりを行っている。席の配置を配慮し、利用者間のトラブルや孤立感防止に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や体調不良が理由で通所に来られなくなった際には、ケアマネジャーや家族に電話で状態の確認を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の会話の中からご本人の思いや希望を取組み、入居前の生活歴を参考にし何をやりたいのかを職員で意見を出し合い、ご本人が納得できるくらしの支援が出来るように努めている。 | 入居者の思いを把握しようとする際は、自分の身に置き換えて思いを巡らし、気持ちを推測し、支援するように指導している。夜は、静かな環境で入居者もリラックスしており、眠れない人のペースや表情を大切にゆっくり話を聴くなどして入居者のストレス軽減に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族への電話や来所された際に、ご自宅での生活などを聞き、ご本人の生活に馴染んだサービスを提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人と関わる中で心身の状態や変化などの申し送りは、日誌に記録し職員に周知している。また、朝礼や部門会議などで再度情報の共有や対応などを話し合っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人を支援していく中で課題を出し、家族の意向も加え出来そうなところを職員間で意見を出し合い少しずつ改善していくように努めている。3ヶ月に一回の振り返りや、半年に一回計画を見直して、家族を含めて情報を確認している。 | 入居者の現在のADLレベルを保ち続けることを大切に、ケアプランが作成されている。今その人ができる能力を保持し、職員は見守りと待ちの姿勢で入居者の暮らしを支えることにしている。その結果、入居者全員トイレでの排泄ができ、食事も介助されることなく自分らしくゆっくりとした生活を送ることができている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護保険ソフト内の項目に記録し、介護計画と連動している為、支援経過や活動を確認共有し、介護計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 定期病院受診は家族に協力してもらっているが、施設で起きた疾病については、日頃の状況を把握している職員が同行し、家族にも付き添いをお願いしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方がボランティア活動で清掃活動を行ってくださっている。コロナウイルス感染症予防の為、中止になることもあり参加できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の選択はご本人、ご家族の希望をお聞きしている。定期の病院受診は基本ご家族にお願いしている。往診時には、職員が状態を主治医に報告し、家族の受診には主治医に報告することがある場合は手紙を書いている。 | 協力医院から訪問診療を受ける体制ができしており、全ての入居者が毎月診察を受けている。専門医への定期受診同行は、家族が基本となっている。夜間の緊急時は、同法人内の看護師と連携し、適切な医療が受けられるような体制を整えている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 本体の看護職員との連携を図っており、夜間のオンコール体制もとっている。入居者に異常があった場合は、看護師に報告し必要時は主治医に連絡を取り指示を受けて対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された場合は医療機関に情報の提供を行い、入院中の状態について、現在はコロナ感染症予防により面会ができない為、病院の担当者に伺っている。退院時には、カンファレンスに参加し、情報を得ている。過去1年間入退院はなかった。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 6か月に1回のサービス担当者会議において、ご家族に看取りを希望されるかを確認している。現在、看取りを希望されている家族はいない。また、ユニットバスで入浴が困難になった場合、ご家族に法人内の特養への入居を希望されているか意向を聞いている。 | 重度化や終末期に向けた支援について、重要事項説明書に一部記載はあるものの、ホームの方針を明確に示した文書は見られない。利用者や家族に説明する際の資料等があると良いと思われた。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年本体施設での救急蘇生法研修会に参加している。応急手当普及員と看護師が指導を行い、周知している。必要に応じて対応方法を確認している。事故発生時は、連絡フローチャートに沿って、連絡をとっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 本体施設では年に3回、当事業所では年に1回消防署、消防団、消防設備の方に指導して頂き、訓練に参加している。定期的に消防設備の点検も実施しており、緊急時のスムーズな対応ができるよう努めている。毎月通報訓練も実施している。地震、水害時の訓練は、今後計画し行っていく。 | 2021年3月は、ホーム独自で夜間の火災発生を想定し入居者も参加して避難訓練を実施している。今後は、地震や水害時の土砂崩れ等を想定した訓練も行いたいとしている。 | 運営推進会議で、自然災害等に備えるための課題等を話し合い、委員に訓練への参加を依頼したり、支援体制づくりに協力を得るのも良いと思われる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 事業の理念にあるように、個人の尊厳を大切に、さりげない言葉かけに、日々心掛けている。 | 理念の最初に「個人の尊厳を保ち」とあり、毎朝唱和して入居者尊重の意識づけを行っている。法人内では、毎年1回、プライバシーに関する研修を行い、職員は動画を見て学んでいる。 | 「一人ひとりの尊重とプライバシー」について、具体的に考える機会等があると、職員の意識も更に高まると思われる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活で会話をしながら、ご本人の希望を聞き、それを一番に考え、職員の思い込みや決めつけで本人の思いに沿わないケアにならないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員優先の暮らしにならないように、入居者の立場に常に自分を置き換え、入居者の生活リズムにあわせて体調面や、精神面を考慮して支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝の整容時間を大事し、入浴時や行事の際には、衣服と一緒に選んでいただき、ご本人の希望に応じてマニキュアや化粧、スキンケアを行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 建物東側に小さい菜園を設けており、皆さんで育てた野菜を収穫し、切裁や味付け、盛り付けの手伝いをする中で、調理や食事に楽しみを持たれている。後片付けの茶碗洗い、お盆拭き、テーブル拭きなどをしていただいている。 | 現在は、朝食だけホームで作り、昼食・夕食は、隣接する特養で調理された食事を提供している。季節の良いときは、デッキでお茶会・昼食会・バーベキュー・お月見会をするなどして、気分転換を図り食事を楽しむ支援を行っている。食器は、それぞれが持ち込んだマイ食器が使用されている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は栄養バランスを考え、1か月ごとに作成し、本体施設の管理栄養士にも確認していただいている。発注の際は1人分の食材のグラム数も計算して頂いており、安心して提供できている。食事量、水分量のチェックを行い、水分摂取が少ない方にはゼリーで工夫し不足ないように提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後のマウスケアは自室の洗面台へ誘導し個々で行っていただいている。義歯洗浄の方も同じく自室で行い、毎日浸け置き洗浄を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表で、個々の排泄パターンを掴み、それぞれの排泄パターンに応じた誘導に努めている。タイミングが合わずに失敗した場合は、自尊心を傷つけないように声かけをし誘導を行い、清拭やシャワー浴で対応している。 | 職員は入居者の排泄パターンを共有し、誘導や見守りを適切に行い、トイレでの快適な排泄を支援している。現在、オムツやポータブルトイレの使用者もなく、全員が布パンツを使用して生活出来ている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝朝食前に牛乳を提供している。1日の水分量は1000ml～1500mlを目安に摂取を促している。排便チェックを行い、便秘の方にはオリーブオイルまたは、排使用のお茶を食していただき、排便がスムーズになっている。なるべく下剤を使わないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に週3回の入浴を実施している。希望がある場合は、追加で入浴をしていただいている。本人の体調や希望に応じて時間をずらしゆっくり入浴できるようにしている。体調不良で入浴できなかった場合は、清拭や衣類交換を行っている。 | 家庭用の浴槽を使用し、本人のペースを大切に入浴支援が行われている。ADLのレベル低下を防ぎ、出来るだけ浴槽に浸り、ゆっくりと入浴が楽しめるように配慮している。ゆず湯・しょうぶ湯等季節の楽しみも取り入れており、入浴を拒否する入居者もなく、入浴は生活の一部となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の希望に応じて居室に休まれることがあり、昼はレクリエーションなどで活発に動いていただいている。夜間眠れない人にはリビングで職員がゆっくりと寄り添ってお茶を飲んでいただいている。眠くなり休まれるまで対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は入居者の服薬内容を理解しており、変更があった場合は日誌に記入し申し送りを行っている。誤薬がないように名前と日付を書いて仕切りのついたトレーに入れ、再チェックを入れて服薬介助している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の特技を活かした活動を支援している。レクリエーション、脳トレ、家事活動、創作活動などを実施。散歩を希望された場合は職員が付き添い支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ウッドデッキに出て、日光浴や食事会、茶和会を行っている。入居者と一緒に育てた野菜を食事で提供している。また、盛り付けなどを手伝っていただいている。 | コロナ禍のため外出支援は控えている。ホームは木々の緑に囲まれ、自然豊かな小高い丘の上に位置していることから、ホームのデッキで外気に触れたり、法人の敷地内の散歩道で外出気分を味わえる環境にある。コロナ収束後は、以前のように桜やコスモスなどのお花見や、海までのドライブを行いたいとしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 職員が、ご本人のお金を持つ事の大切さを理解しているが、所持することはできていない。外出時に品物を選んでいただくが、お金の支払いは出来ていない。職員が代行している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や大切な方に自ら電話をするという方はおられない。プレゼントの手紙が届いた場合はご本人にお渡ししたり代読したりしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは、天候によりカーテンを開閉し照明に配慮している。室温湿度計を置き調整している。時にはテレビを消し音楽を流し落ち着くように気分転換をしている。季節に応じた壁面を考え、製作には入居者にかかわってもらい季節を感じていただいている。浴室やトイレはわかりやすいように表示している。 | リビングからは、広いウッドデッキに出られ、スロープを降りるとホームの菜園につながっており、明るく開放的である。屋内は優しい色合いの飾り物や、お月見など季節が感じられる手作り作品が掛けられており、明るさと清潔感のある心地よい空間となっている。昼食後、畳コーナーで昼寝をする人、ゆっくりくつろぐ人など、それぞれが職員の見守りの中、安心して過ごせる環境になっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やウッドデッキには椅子やベンチを設置し、一人になりたいときにはいつでも一人になれる空間づくりをしている。リビングではソファや持ち運びが出来るキューブ状の椅子も置き、ご本人の希望に合わせていつでもくつろげるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はご本人の写真や作品なども飾り、大切にしているものを置いたり、ベッドやタンスの位置に配慮している。 | 居室入り口は、手作りの花が飾られ、壁紙やカーテンも優しい色合いで落ち着いた雰囲気のある居室となっている。個人の家具等の持ち込みは、あまり多くは見られないが、家族写真やカレンダー、壁掛けなどが飾られ、それぞれの心地よさを大切にしたい部屋となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 排泄のための表示は大きく身長にあわせた高さにしており、トイレ・便所など本人がわかりやすい表記にしている。リビングや廊下には不用なものは置かず、転倒防止に努めている。 | | |